



第242号

目 次

関 係 法 令.....2	事務局庁舎の銘板工事について..... 7
学 内 規 則.....2	昭和58年度国家公務員レクリエーション共同事
富山大学職員に対する給与の口座振込実施要領	業富山地区卓球大会..... 7
の制定.....2	学内レクリエーション〈麻雀大会〉..... 8
諸 会 議.....4	寄 稿〈ネパールで見たこと感じたこと〉..... 8
人 事 異 動.....6	シリーズ 「富山大学、あの日あの頃」(4)
学 内 諸 報.....7	〈赤谷山の遭難〉.....10
海外渡航者.....7	職 員 消 息.....12
島津科学技術振興財団から理学部高木光司郎教	主 要 行 事.....12
授に助成金が贈呈される..... 7	

人事院規則9-7（俸給等の支給）第1条の3の規定に基づき下記のとおり変更を申し出ます。

記

区 分	変 更 後	変 更 前
振 込 先	金融機関 銀行	銀行
の	店 舗 名 本店 支店	本 店 支 店
※ (コード番号)	銀行コード 本・支店コード	
変 更	預金種別 1. 普通預金 2. 当座預金	1. 普通預金 2. 当座預金
	口座番号	
変 更 開 始 時 期	年 月 (給与、期末・勤勉手当 (寒冷地手当、追給額等) から	
摘 要		
取 扱 者 印	経 理 課 部 局	銀行 本店 支店
	課 長 係 長 係 係 長 係	金融機関 確認印 担当者
		確認印

- (注) 1. 該当する番号又は事項を○で囲むこと。
 2. 振込先等は十分に確認のうえ記入すること。
 3. ※欄（個人番号及びコード番号）は記入しないこと。

諸 会 議

計算機センター専門委員会（12月3日）
 (審議事項)

(1)情報処理センターの設置計画について

第11回学則改正検討小委員会（12月5日）

昭和58年度第5回事務協議会（12月6日）
 (審議事項)

(1)学内使送及び郵便物発送業務の集中化について

(2)給与の口座振込について

昭和58年度第7回補導協議会（12月8日）
 (報告事項)

(1)日本育英会奨学生の推薦について
 (2)学生の動向について

(審議事項)

(1)福利厚生施設について

昭和58年度第25回学寮補導委員会（12月9日）**（審議事項）**

(1)暖房問題について

昭和58年度第2回教務委員会（12月9日）**（報告事項）**

(1)昭和59年度富山大学私費外国人留学生の入学選考について

（審議事項）

(1)昭和58年度教職に関する専門科目の授業について
(2)教職に関する専門科目の履修計画について
(3)昭和59年度私費外国人留学生のための富山大学入学志願案内について

昭和58年度第4回入学者選抜方法研究委員会専門委員会（12月10日）**（審議事項）**

(1)入学者選抜方法の改善に伴う昭和58年度以降の調査研究事項について

昭和58年度第2回富山大学共通第1次学力試験実施委員会（12月13日）**（審議事項）**

(1)昭和59年度共通第1次学力試験富山大学試験場試験実施要項について

第12回学則改正検討小委員会（12月15日）**昭和58年度第9回評議会**（12月16日）**（報告事項）**

(1)教官人事について（教育学部）
(2)学生の動向について

（審議事項）

(1)昭和59年度共通第1次学力試験富山大学試験場における試験実施について

(2)昭和59年度富山大学教育専攻科の学生募集要項について

計算機センター専門委員会（12月17日）**（審議事項）**

(1)情報処理センターの設置計画について

昭和58年度第8回補導協議会（12月20日）**（報告事項）**

(1)学生の動向について

（審議事項）

(1)福利厚生施設について
(2)大学祭について
(3)課外活動共同利用施設について

昭和58年度第5回入学者選抜方法研究委員会専門委員会（12月20日）**（審議事項）**

(1)入学者選抜方法の改善に伴う昭和58年度以降の調査研究事項について

昭和58年度第26回学寮補導委員会（12月23日）**（審議事項）**

(1)暖房問題について

昭和58年度第5回附属図書館商議会（12月24日）**（審議事項）**

(1)次期図書館長候補者の選定について
(2)図書館設備費予算配分(案)について

第1回公開講座委員会（12月26日）**（審議事項）**

(1)委員長の選出について
(2)昭和59年度公開講座の実施計画について

◎ 退庁、退室の際には、電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、火災の予防に心がけましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

学 内 諸 報

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
海外研修旅行	人文学部	助教授	濱田 英子	フランス	研究資料収集及び研究者との意見情報交換のため	58. 12. 21 } 59. 1. 13
	"	講 師	神前 進一	シンガポール, マレーシア, 香港	研究資料収集, 現地視察及び研究者との意見交換のため	58. 12. 15 } 58. 12. 22
	経営短期大学部	助教授	小倉 利丸	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国における労使関係の研究	58. 10. 2 } 59. 2. 28

島津科学技術振興財団から理学部高木光司郎教授に助成金が贈呈される

このたび、理学部高木光司郎教授は、島津科学技術振興財団から研究開発助成金として217万円が贈呈されることになりました。

なお、研究題目は「赤外・ラジオ波二光子遷移による高分解能赤外分光に関する研究」です。

事務局庁舎の銘板工事について

かねてから懸案となっていました事務局庁舎の銘板工事がこのほど完成し、去る12月20日(金)に事務局庁舎玄関前の柱に取り付けられました。

この銘板工事は、先に教育学部の鶴木利雄教授に揮ごうを依頼し、青銅板に金文字の彫込みをしたものを取り付けたものです。

なお、鶴木教授には本紙を借りて深く感謝申し上げます次第です。

(庶務課)



昭和58年度国家公務員レクリエーション共同事業富山地区卓球大会

昭和58年度国家公務員レクリエーション共同事業富山地区卓球大会が、去る12月2日(金)不二越体育館において、富山通商産業局の当番で開催されました。

競技は午前10時から始まり、各ブロック毎に予選リーグ選を行い、各ブロック上位2チームによる決勝トーナメント選で勝敗を決する方法により、富山医科薬科大学Bチームが優勝しました。本学からは(A)、(B)の

2チームが参加しましたが、惜しくも決勝トーナメント戦で敗退いたしました。

なお、成績は次のとおりです。

- 優勝 富山医科薬科大学 Bチーム
- 次勝 富山医科薬科大学 Aチーム
- 3位 富山法務局チーム

学内レクリエーション

○麻雀大会

本学レクリエーション委員会娯楽部会所属の麻雀班主催による昭和58年度学内麻雀大会が、去る12月3日(土)48名(12チーム)の参加者を得て本学職員会館で実施されました。

なお、成績は次のとおりです。

個人戦

優勝 中林 邦夫(教養部) +131.8

次勝 大聖寺一孝(工学部) +130.6

3位 堀 和実(人文・理学部) +78.5

名人賞 佐野 勤(経済学部) +1.6

団体戦

優勝 教育学部チーム

(中川・永森・門前・藤井)

次勝 経済学部Aチーム

(竹川・岡山・吉川・江藤)

3位 人文学部・理学部Bチーム

(奥村・堀・柴田・寺林)

寄 稿

〈ネパールで見たこと感じたこと〉

教養部教授 小 島 覚

私のネパールに関する知識と理解は、それまでたいへんに浅薄なものだった。いわく、小さな未開の国、貧しい人々の生活、ヒマラヤ、そして壮大な自然等々。しかし実際に現地を訪れた時、それまで自分がネパールについて余りに知らなさすぎた、というより無関心でありすぎたことに深く恥入った次第だった。私がネパールにおける薬物資源の学術調査隊の一員として、初めて同国に入ったのは昨年7月21日だった。以来、アンナプルナ連山を一周する40日間の調査トレッキングを終えてネパールを発つまでちょうど2カ月間滞在したが、それはいろいろと考えさせられることの多い旅だった。

ネパールは小さな国にもかかわらず多民族国家である。地勢が険阻で南北の標高差が極端に大きいという自然環境の特殊性もあって、さまざまな民族が谷筋に山あいに住みつき近年までほぼ独立した状態でそれぞれの文化を発達させて来た。近年になってネパール王国として統一国家を形成するに到ったが、したがって一口にネパール人と言っても、容貌や肌色はもちろん、言語や風習の異なる実に多様な人々を含んでいる。また宗教もヒンズー教が国教となっているが、ネパールは言うまでもなく釈尊生誕の地であり、仏教も広く一般大衆に受け入れられており、ヒンズー教と仏教がみごとに融和した一種独特の宗教的雰囲気をかもし出し

ている。

たしかにネパールの人々の生活は貧しい。一部の都市生活者および裕福な階層を除くと、圧倒的多数の人々はほとんど自給自足にも近い大変貧しい暮らしをしており、それはおそらく今から100年前の日本とほぼ似た状況にあるようにも思われた。首都カトマンズはネパール最大の、そしてもっとも近代化の進んだ街である。主要道路は舗装され車がひしめき合い、しょうやかな商店が並びまた観光客用の近代的ホテルもそこに建っている。大きな病院も最近はいくつか建設された。現在まだテレビこそ放映されていないが、電気も一般に普及している。

ところがカトマンズを一步出外れるとそこはもう大変に遅れた世界である。電気はなく、交通はきわめて不便であり、近代医学の医者は全く居ない。子供たちは着のみ着のままボロをまとい、ほとんどが裸足で頭髪にはシラミが群れている。衛生状態は劣悪で乳幼児の死亡率は25%にも達するという。学令期児童の就学率は低く(全国平均約30%)、したがって文盲率は80%を越す高さという。農業が主産業で、山麓から急な斜面はみごとに耕作され見上げる山頂まで段々畑が続き、斜面の中腹には粗末な作りの農家が集落をなしている。最近でこそ簡易水道が徐々に普及してきたが、それでも水場まで1キロも2キロも歩いて水を汲みに

行かねばならない所も多い。水汲みは女子供の重要な仕事である。

ネパールにはカトマンズ周辺と南部のタライ平原や限られた所を別とすれば、自動車はおろかオートバイすら走れる道はない。地形が険しいということもあるのだろう。もともとネパールの山岳地帯では“車輪の文化”が発達しなかったようである。したがって物資の輸送はすべて人力または畜力によるほかはない。ところが畜力となると、標高差の極度に大きなネパールでは家畜によって標高による適応域が決まっていて低地から高地まで同じ動物を使うことは難しい。そうなると結局もっとも頼りになる手段は人力ということで、古くはもちろん現在でもポーターが物資輸送上、重要な役割を果たしている。ポーター達は30~60キロの荷物に背負い紐をかけ、それを頭からかつぎ背中と頭で重量を支えて歩く。そして原則として手にもものを持たない。ポーター達のほとんどは裸足かせいぜいゴム草履である。

先にネパールは交通不便と書いた。しかしそれはあくまでも車輛による交通ということであって、人の歩く道は逆に四通発達している。谷沿いに尾根筋に、山の斜面を上り下り、集落から集落を結んで網の目のように張りめぐらされており、人々は季節や天候などその時の状況に応じて道を使い分けている。こうしてみるとネパールは決して交通不便どころか交通網は大変密に発達していると言える。かつてはインドから中国(チベット)に通じる重要な街道がネパールを通過していて、その街道沿いに各種文物の交流があったという。事実、今も各所に、そして思いもかけぬ山奥にもヒンズー教や仏教の史跡や遺物あるいは聖なる地が残っていて、かつて古い宗教文化の栄えたところであることを思わせる。自動車に代表される現代文明が入ってからこそ辺鄙な土地として取り残されたが、それまではむしろ文化水準も高い国だったのであろう。

ネパールの人たちは概して日本人と比べて決して背が高い方ではない。しかし均整のとれた美しい体格をしている。幼児は概して栄養状態も衛生状態も悪くやせ細った子が多く、乳幼児の死亡率は高いと聞く。しかしそれがかえって虚弱体質を淘汰するのだろうか、成人に達した人々は健康でたくましい。男でも女でも自分の体重ほどの荷を背負って大変な山坂を日に30キロ以上歩くのはごく普通のことと言う。それでいて決して筋骨隆々と言った体格ではなく、たとえばポータ

一達の脚は驚くほどに細い。それにすぐれた視力には定評があり、また一般に歯みがきの習慣はないと言うが歯が美しく虫歯は驚くほど少ないと言う。つまりネパールの人たちは生物として生きる人間の基本的な強さを具えており、こうしてみると文明社会に生きる我々が健康的にも本当に恵まれているのかふと疑問になる。



ネパールの子供たち(ツクチェにて)

ネパールは農業国である。耕して天に到るがごとく耕地は急な山の斜面のはるかな頂きにまで達している。しかし作業の機械化は遅れすべて畜力と人力に頼っている。そのため、かつての日本がそうであったように、子供も重要な労働力で子供と言って遊んでばかりはいられない。就学する子はむしろ少なく、幼児の頃から子守り、水汲み、家事手伝い、家畜の世話などさまざまな家庭内労働に従事する。逆に子供たちの家庭での役割りと貢献が立派に認知されているわけである。農繁期ともなれば一家総出で作業に出る。電灯がないので日のあるうちに働き、夜はローソクやランプを囲んでしばし一家団らんの時となる。ある夜、とある集落を通りかかった時、粗末な農家の庭先にローソクの灯を中心に親子が輪になって楽しげに歓談し、また素朴なゲームに興じている光景に遭遇した。それは何ともほのぼのと心む情景だった。今の日本からはすでに失われてしまったものをふと見つけた気がした。現代の日本では家族が協力しあって働くという状況はもうほとんどなくなってしまったようである。核家族化が進みそれでいて親子の対話は途絶えがちな昨今である。文明が社会的緊張を高め、家族のきずなをこわし、家庭の崩壊や子供たちの心理的荒廃が進行している日本と比べネパールは車もテレビも電話もなく、また熱も漫画も受験もない世界である。しかしそこには家族を中心とした心あたたまる人間のつながりがあり、たとえ乳幼児の死亡率は高いとしても、健康でたくましい、

そして信心深い人々が生きている。文明とは何か、人間のしあわせとは何か、つくづく考えさせられることの多い旅だった。

▶筆者は、文部省科学研究費補助金(海外学術調査)

により昭和58年7月19日から9月27日までスリランカ及びネパール両国における伝統医学の比較研究並びに天然薬物資源の学術調査のため、ネパール、タイ、香港へ外国出張されましたので、特に寄稿を御依頼したものです。

シリーズ 「富山大学、あの日あの頃」(4)

〈赤谷山の遭難〉

富山大学の山岳部学生が冬の赤谷山で遭難した事件は、昭和36年12月末のことで、私が学生部長在任中であつた。

山岳部は、その年立山連峰中の赤谷山冬の登頂を計画して学生部に届け出た。山岳部の冬山登山は始めてのことであつたので、山岳部長の林 勝次教授に願い、登山計画書の検閲を受けた上でこれを許可することにした。

出発の前、私は登山隊12名の学生諸君を学生部長室に集め、林教授が懇切な注意を与えられた。

一行は、12月28日赤谷山に登り、全員で雪洞を掘り、12名のうち6名はここに留まり、他の6名はベースキャンプに下りた。山頂の6名は雪洞で一夜を過ごし、翌日ベースキャンプに下りる予定であつたが、その日から大雪となり、頂上とベースキャンプとの連絡は不可能になってしまった。ベースキャンプの2名は、連絡のため山を下り、ふもとの馬場島附近の発電所にたどりつき、そこから大学本部へ電話をかけた。1月1日になっていた。

私が学生部に出動した時は、職員は救援隊員の召集や食糧の準備などで忙しかった。救援隊の第1陣は、元日の夜出発し、翌日から5日にかけて、連日救援隊は次々と出発した。メンバーは、主として山岳部員とOBの諸君、それに部の関係の教官諸氏である。地上は大雪で、交通機関はほとんどマヒ状態になっていた。集まった人数を逐次出発させるといふ有様であつた。

県警察部の一隊も出動した。また5日には自衛隊のヘリコプターも飛んだ。地上部隊の一部は、赤谷の山頂に至り、2人の遺体を発見したが、ベースキャンプにこれを収容することができなかった。そして救援隊の活動も限度に達し、1月10日に引き上げざるを得なくなった。

富山大学名誉教授の会 大 島 文 雄

すでに山頂の諸君の生存は絶望である。学生部では、下山された山岳部長林教授を中心に対策を立てた。遺体の搜索と収容の仕事は、山岳部の学生とOBの手では無理である。やはり専門家の力を借りなければならぬ、ということで、立山山麓の芦崎のガイド諸氏に出動を懇請した。

これに対してガイド諸氏は非常な誠意を示された。地元の大学の、この不幸を坐視することはできないという心持ちで、15人の人々が出てくれることになった。ところで、この15名のうち、半数以上は中年を過ぎた人たちだが、いずれも山小屋の経営者で、こんな仕事に出る必要の無い人たちである。この人たちが若手のガイド諸君とともに出動しようという。佐伯文蔵氏を長とする15人は、いずれも山のベテランだ。南極越冬隊に加わつた佐伯富雄氏ら2人もこの中に含まれる。このような強力な搜索隊は、日本の山岳遭難史上かつて見なかつたものだ。今後もあり得ないであろうと専門家は言つた。

その上おどろいたことは、この人たちが、今度の仕事の間は酒を飲まないと言つたことである。じつは、学生部の心配の一つは、搜索隊の食糧、ことに酒のことであつた。山のガイドさんは一升酒を飲める人たちである。15名10日間の酒の量は、一石五斗になる。これを冬山へあげることは大変だ。そう思つていたので、酒を断つという申出は、なんともありがたいことであつた。もちろん酒の用意が省けて助かつたという単純な喜びではない。結局は、気付けとしてウイスキーをいくらか用意しただけであつた。

そしてさらに驚いたことは、この仕事について報酬は貰わぬという申出であつた。佐伯文蔵さんは、居ずまいを正して言つた。

「われわれは、地元の大学のために、学生諸君のた

めに、誠心誠意、全力を尽くしてこの仕事をやりとげたい。そのために、酒も飲まぬ。お礼もいただかないのだ」と。なんとということであろう。

これらの人々には、旧制富山高校時代、生徒諸君は長年お世話になっている。また山岳部長林教授と、これらの人々とは親しい間がらである。またこの人たちの出動について斡旋の労をとられた佐伯富雄氏は、旧制富山高校の出身で、芦峯の名望家の若主人だ。そのようないろいろの関係から、ガイド諸氏は、こんどの事について特別の好意を寄せられたのであったが、それにしても、あまりにも美しいその心持に対して、われわれは言うことばも無かったのである。

捜索隊の出発は1月14日。林教授を隊長とし、15名のガイド諸氏を主力として、関係の教官も加わり、また、山岳部学生とOBから成るサポート隊を加えたものであった。地鉄線「上市」駅で電車を降り、そこから、一行は雪中徒歩で剣・赤谷山麓の馬場島へ向かった。私は上市駅前に立って、一行を見送りながら、その後姿に合掌したい心持ちであった。

この捜索隊の10日間にわたる活動によって、遭難6名のうち5名の遺体が発見され、これを赤谷山頂から富山大学に収容することができた。

遺体発見にいたるまでの苦労はこれを省くとして、山頂からベースキャンプまで遺体をおろす作業は、極めて困難なものであることが前もって予想されていた。私は林教授の綿密な計画をきいていた。山頂からベースキャンプまでの標高差300メートル、地形のけわしい急傾斜だ。その上にたいへんな積雪である。この山の一段毎にロープを張り、これを伝って徐々におろす。5つの遺体をおろすのにまる1日かかるだろうということであった。

このような予想に対して、ガイド諸君が実際にやっ

たやり方は、真におどろくべきものであった。この極めて困難な、極めて危険な作業を、全く無造作にやっていたのけた。1つの遺体の前に1本、後に2本のロープを張り、3人がこれにとりつき、一気にかけ下りる勢で下ろしたのだ。5つの遺体を、ベースキャンプに下ろすのに、わずか30分。それは人間わざとは思われなかったと人々が言っている。

捜索隊は、5つの遺体を擁して帰途につき、1月24日には馬場島を出発して、その日のうちに大学についた。

話は後のことになるが、事件の落着のあと、大学側と遺族の人たちは、ともに芦峯にお礼に行ったが、こちらから頼んでやってお礼と記念品を受取ってもらったのであった。

なお、この捜索活動では、遭難者6名のうち5名の遺体を収容したわけで、1体だけがあとに残された。これに対する第2次の捜索は、2カ月あまり後になり、3月末に行われた。遺体が赤谷山両側の谷間に落ちこんだものとする、雪解け後はブッシュにかくれて発見することはできない。冬山の荒れが終わり、雪解けの始まる直前、その時期を林教授は考えられたのだ。

こんどの捜索隊は、立山のガイドさんは数名にとどめ、少し小規模の編成であった。さいわいに、残りの一体は、やはり赤谷の山頂で発見された。その結果、富山大学では、6月に遭難6君の合同慰霊祭を行うことができた。山のガイドさんも、われわれの恩人としてこの慰霊祭に参列を願ったのであった。(次号につづく)

▶ 筆者：昭和2年4月 富山高等学校に着任
昭和43年3月 停年退職
昭和43年6月 富山大学名誉教授の称号授与

◎ 積雪・凍結時の自動車等の運転は、極力取り止めることに努めましょう!!

◎ 積雪時は、構内除雪の障害とならないよう駐車に注意しましょう!!

◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!

職 員 消 息

《改 姓》

経済学部

助 手 山上 嘉江 (旧姓 藤川)

《住所変更》

経済学部

助 手 山上 嘉江

《新 任 者》

庶務部

事務補佐員 横越 保子
(庶務課庶務係)

工 学 部

文部事務官 絹石 達也

工 学 部

文部事務官 新庄 忍
(会計係)

教 養 部

教 授 稲垣 保彦

附属図書館

文部事務官 桜井 雅和
(総務係)

事務補佐員 山ノ下久美子

主 要 行 事

本 部

- 12月1日 給与法改正説明会 (於, 文部省)
- 2日 R連盟卓球大会 (於, 不二越体育館)
- 3日 学内麻雀大会 (於, 富山大学職員会館)
- 5日 第11回学則改正検討小委員会
- 6日 第5回事務協議会
- 8日 北陸地区国立大学人事担当課長会議
(於, 金沢大学)
- 第7回補導協議会
- 9日 会計係長会議

- 第2回教務委員会
- 第25回学寮補導委員会
- 9~10日 北陸地区大学課外活動担当者研修会
(於, 芦原研修会館)
- 10日 第4回入学者選抜方法研究委員会専門委員会
- 12日 学務関係事務打ち合わせ会
- 13日 共通第1次学力試験の成績請求及び提供に
関する地区別情報処理事務連絡会
(於, 京都大学)
- 昭和58年度第2回富山大学共通第1次学力

- 試験実施委員会
 15日 第12回学則改正検討小委員会
 昭和58年度災害補償制度説明会
 (於、名古屋合同庁舎)
 16日 第9回評議会
 20日 第8回補導協議会
 第5回入学者選抜方法研究委員会専門委員会
 23日 第26回学寮補導委員会
 26日 第1回公開講座委員会
 28日 御用納め

人文学部

- 12月3日 学部補導委員会
 7日 学部教務委員会
 14日 学部図書委員会
 教授会
 人事教授会
 21日 コース代表者会議
 22日 真率会役員会
 23日 学部図書委員会
 授業終了

教育学部

- 12月2日 教育実習運営協議会
 3日 附属養護学校新入学児童・生徒合格発表
 8～9日 日本教育大学協会北陸地区第二部会教育実践研究指導部門研究協議会
 (於、福井大学)
 9日 昭和60年度入試基本構想委員会
 10～11日 附属養護学校学習発表会
 12日 附属幼稚園新入園児合格発表
 14日 学部図書委員会
 16日 昭和60年度入試基本構想委員会
 17日 附属幼稚園第2学期終業式
 19日 昭和60年度入試基本構想委員会
 21日 学部教務委員会
 教授会
 授業終了
 22日 附属小学校第2学期終業式

- 附属中学校第2学期終業式
 23日 学部将来計画委員会
 人事教授会
 24日 附属養護学校第2学期終業式

経済学部

- 12月7日 学部将来構想検討委員会
 8日 財務委員会
 10日 論集委員会
 13日 学部施設整備委員会
 14日 学部教務委員会
 人事教授会
 教授会

理学部

- 12月14日 教授会
 研究科委員会
 人事教授会
 22日 真率会役員会
 24日 授業終了

工学部

- 12月1日 工学部構内交通対策委員会
 学科主任会議
 2日 北陸信越工業教育協会富山県支部幹事会
 5日 事務連絡会
 12日 工場運営委員会
 学部補導委員会
 13日 学部教務委員会
 14日 教授会
 工学研究科委員会
 工学部移転実施計画委員会
 21日 工学部移転実施計画委員会
 共通第1次学力試験監督者説明会
 25日 冬季休業(1月8日まで)

教 養 部

12月7日 予算委員会
人事教授会
教授会

14日 補導委員会
講演会 演題「メスパワー効果による物
質の内部構造の解析」
講師 中村陽二
(京都大学工学部教授)

21日 人事教授会
教授会

附 属 図 書 館

12月8～ 北信越地区国立大学事務部課長会議
9日 (於、富山医科薬科大学)

12日 係長事務打ち合わせ
23日 係長事務打ち合わせ
24日 附属図書館商議会

トリチウム科学センター

12月14日 教育訓練

経営短期大学部

12月1日 第14回教授会
15日 第15回教授会
第6回財務委員会
第1回夜間主コース検討委員会
24日 授業終了
26日 第2回夜間主コース検討委員会



編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あ け ぼ の 企 画
富山市曙町8-4
電 話 (33) 3 3 5 6 代